

川の水は暮らしの水へと続いています

利水と治水に役立つ 行徳可動堰

普段何気なく私たちが生活用水として利用している江戸川の水。その水を供給するため設置された行徳可動堰。老朽化に伴い、工事がはじまった。



水位を安定させ穏やかな水面をつくる行徳可動堰



都市化した河川では、ゴミの不法投棄が後を絶たない。実際に江戸川沿岸を歩いてみると、自転車や大型テレビ、缶やペットボトルが発見できる。さらに大雨の後には、上流から流木などが流れてくる。これらは、河

江戸川河川事務所のゴミ対策

川管理施設の機能にダメージを与え、江戸川の景観を損なうなど、河川環境の悪化につながってしまいう危険性が高い。現在、江戸川河川事務所では管内全域の巡視（パトロール）を定期的に行っている。また、昭和56年から開催されて

川の豆知識

■毎日飲んでいるのは実は川の水！

現在、家庭用水として使われている水は、川や湖などから取水したものが約86%、地下水が約14%。意外と日々、お世話になっているのだ。

■地球に存在する水の量

地球には約14億km³の水があるといわれていますが、そのうちの約97%が海水で、淡水は約3%しかありません。この淡水の約70%は南・北極地域の氷として存在し、地下水を含め、川の水や湖・沼など、私たちが生活に利用できる淡水は地球の水のわずか0.8%しかない！。

江戸川最下流部に位置

千葉、東京、埼玉など首都圏約1,000万人のライフラインとなっている江戸川には、多数の水門や閘門などの河川施設が存在する。そのなかでも、江戸川の最下流部に位置する行徳可動堰は、昭和25年に着工し、昭和32年3月に竣工して以来、

行徳可動堰



平常時(ゲート全閉)



洪水時(ゲート全開)



江戸川から取水し浄水場を経て各家庭へ=ちば野菊の里浄水場

江戸川流域の住民の生活において、大きな役割を担っている。

安定化と海水遡上防止

まずは、「塩水の遡上防止」と「水位の安定化」。江戸川最下流部は塩分濃度が高く、行徳可動堰では、通常時はゲートを下げることで、江戸川放水路か

洪水時の可動堰の役割

一方で、近年、極地的な大雨が増加傾向にあるが、首都圏の都市化した地域では、一度洪水となれば大きな被害が出てしまう。そのため、行徳可動堰では、大雨などによる洪水時にはゲートを引き上げ、洪水を安全に流下させる役割を担っている。

今年度改修工事開始

行徳可動堰は整備後50年以上が経過し、施設自体が経年劣化し、錆び等が原因で操作に不具合が発生している。このため平成22年度から平成26年度までの5カ年で、ゲート交換および堰柱の耐震補強工事等を実施する。工事は今年度から本格的に着手しており、安全に細心の注意を払いながら、より安全な行徳可動堰の完成を目指す。

高校時代はずっと江戸川で 遊んでいました

タレント 大島麻衣さん

「のだしみんだった私は、小さい頃から江戸川を見て育って来ました。物心ついたときから、祖父に釣りに連れて行っても、江戸川にゴミを捨てられたりして川遊びをした思い出があります。高校時代は、江戸川沿いに学校があったので、毎日のように川を眺めたりと、河川敷で友達と遊びました。ゴミを捨てる人たちは、川への親近感がないのかもしれない。どこにゴミを捨てたら良いかわからないから川に捨ててしまおう人もいるかもしれない。もっと川に親しんだり、マナーを学ぶ機会があればいいな、と思います。」



大島麻衣

タレント。千葉県出身。昨年より野田親善大使となる。テレビのバラエティ番組などで活躍中。

